

広島・愛媛両県にわたる本州四国連絡道路尾道・今治ルート「瀬戸内しまなみ海道」が開通し、周辺の豊かな自然・景観・芸術・文化などの資源を活かし、これまでバラバラであった島々や市町村が「しまなみ」というキーワードで一体となって、地域の活性化を広域的かつ継続的に展開する仕組みとして誕生した。県境を越えた交流・連携システムが「瀬戸内しまなみ大学」である。

大学の仕組みは、学生の方に学生証を配布し、この学生証をもって講座に参加すれば受講スタンプを押し、年間10講座の参加で平山郁夫学長名の修了証書を授与するというもので、現在全国から1500人の方を登録している。

地域住民や来訪者の方々が、この大学に参加し、学び・体験・交流したことが地域づくりの実践活動として定着し、そこから新たな地域の個性や文化・産業が創造され観光も含めた更なる交流の拡大を目指している。

瀬戸内しまなみ大学は、知名度や講座内容の更なる充実、地域でのいっそうの定着など、まだ成長途上であるが、地域内外の交流人口も徐々に増えつつあり、地域の魅力の再確認と沿線の一体感の創出を図るべく活動を続けていくこととしている。



所在地	瀬戸内しまなみ海道
関係する施設など	しまなみ交流館、向島洋らんセンター、因島フラワーセンター、シトラスパーク瀬戸田
イベント	体験しながら学ぶ講座やイベント、しまなみ海道レンタサイクル (広島県御調町、尾道市、向島町、因島市、瀬戸田町、愛媛県上浦町、大三島町、伯方町、宮窪町、吉海町、今治市)